

クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号で初めて新型コロナウイルス感染症の患者さんが確認された2020年2月。県内の感染者は少なく、そのうちに収束するだろうという淡い期待感があった。しかし、あっという間に感染者は増え、その勢いはとどまることがなかった。市内の病院では、新型コロナウイルスに感染した患者さんが緊急手術を必要とした場合の対応をどうするかが問題となった。



本当にひどいと思ったらありゃしない。豪華客船なんちゃらプリンセス号で初めて新型コロナウイルス感染症の患者さんが確認された時、「今のうちに手術室で何か対策を立てておきませんか？」って言ったのに。そしたら、M先生が“大丈夫、心配ないよ”って。きりっとした顔で。頼もしかったな～あの瞬間。それが、なんですか、このありさまは！

この感染症は世界中でほぼ同時に発生し拡大した。海外の医療材料工場が営業停止し、その影響で日本国内では手術を行うこと自体が難しい状況になった。



M 医師

医師歴20年、麻酔科。NM病院に赴任して15年目。麻酔科医としての技術は一流だが、気が弱い。ベテラン看護師を前にすると緊張してしまう。



T 看護師

看護師歴15年。NM病院中央手術部に勤務して10年目の主任看護師。時に厳しく、時に優しく、上手く周りをサポートしている。問題なく手術が行えているのは彼女のおかげ。

2023年5月に、感染症法上の位置づけが「5類感染症」となった新型コロナウイルス感染症。これは、新型コロナウイルスがまだ未知のウイルスであった2020年、感染を広めることなく手術を行うと奮闘した医療従事者たちの物語である…

新型コロナウイルス感染者、手術室にやって来る

新春!! 松代劇場

2020年某日 ー手術 1 週間前ー



T主任、新型コロナウイルス陽性の松代太郎さん（仮名）、陰圧室（注1）で手術をしたいんですけど。

陰圧室での手術なんて無理です！当院にはないって前に言いましたよね。緊急性の高い患者さんは陰圧室を持っている病院で手術してもらったらどうですか？



お願いしたんですが、どこも引き受けてくれなくて…

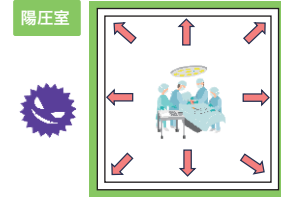
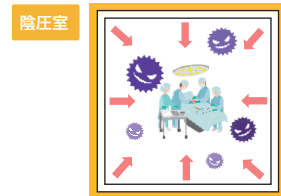
引き受けてくれない？ わかっていたことでしょう。もう…しょうがない。うちは工夫してやるしかないですね！



工夫って…T主任、どうするんですか?????

そうですね。うちの手術室は全て陽圧室だから、室内気が外部へ出ないように防御カーテンを使って…は難しいか。よし！準備室もある大きな手術室を使いましょう！

もう、みんな必死ですよ。先生がしっかりしないから！



注1) 陰圧室とは、室内の空気が室外へ出ないようにしている感染者用の部屋のこと。通常、手術室は室内の清浄度を保つため外部の空気が室内に流入しないように陽圧となっている。

手術当日

M先生、そろそろ患者さんが入室しますよ。防護服を着て部屋の中で待機してください。



T主任、今日のメンバーは？



今日のメンバーですか？先生方に手術器械を手渡しする器械出しは主任の私が務めます。そのほかのサポートは師長です。連絡係として若手のエース看護師も配置しました。今日はベストメンバーです。先生以外…聞こえました？冗談ですよ。そんなに落ち込まないでください(笑) さあ、来ましたよ。患者さんの入室です。



松代さんの手術は、その日に予定していた手術がすべて終了してから行われた。

新型コロナウイルス陽性の患者さんは、^{ひとけ}人気のなくなった病院内を移動し手術室内まで搬送される。搬送中はウイルスの放出を可能な限り防ぐため、フィルター装備のある専用ベッドを使用した。



さあ、先生。麻酔導入と気管挿管をお願いします。



はい。あの…えっと…はい！

えっ？緊張しているんですか？何年麻酔科医やっているんです？20年？大丈夫です。先生は出来る子です！がんばって!!



「麻酔導入」とは全身麻酔薬で意識を失わせること。「気管挿管」は麻酔中に人工呼吸を行うため、気管に専用の管を入れる医療処置のこと。この2つは、医療従事者が患者さんの呼気を浴び感染するリスクが高いため、日本外科学会や日本麻酔科学会は、「新型コロナウイルス陽性者への実施は、達人レベルの麻酔科医が行うのが望ましい」としていた。全国の麻酔科医が様々な工夫をして麻酔導入を行っていたが、防護服を着た上での気管挿管は想像以上に過酷であった。



外科の先生方～入室してください！気管挿管されましたので感染リスクが下がりました～！



日頃から手術着を着用している外科医や手術室看護師であっても、高い防護機能を持つN95マスクを着用しての手術は想像以上の過酷さであった。

手術終了～！予想よりも出血少なかったです～！さあ、先生！麻酔覚醒の時間ですよ。



はい。あの…はい！

あっ！また緊張している！大丈夫。先生は出来る子の時もあります！



「麻酔覚醒」とは、自発呼吸、つまり自分の力で呼吸できるようになり、意識が戻った状態のこと。覚醒後、気管に入っていた管を抜去するが、この時患者さんは大きな咳をする。この瞬間もまた感染するリスクが高いといわれている。

皆さ～ん、お疲れさまでした～。M先生、疲れた顔しちゃだめですよ。明日からまた平時の業務が始まりますからね！がんばりましょう～！

